

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2023年 6月 30日

(宛先)
滋賀県知事

提出者
住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)
滋賀県大津市栗林町5番1号
氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)
日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場/取締役工場長 芦田

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項→第25条第4項
第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、
[事業者行動計画を策定(変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	日本黒鉛工業株式会社 代表取締役社長 渡邊頼光
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	滋賀県大津市唐橋町9番22号

1 事業者の概要

事業所の名称	日本黒鉛工業株式会社 瀬田工場					
事業所の所在地	滋賀県大津市栗林町5番1号					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	2	1	6	9	その他の炭素・黒鉛製品製造業
事業の概要	黒鉛製品の製造及び加工					
従業員の数	199	人	操業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者				
主要な設備	ボイラ	7	台	熱源設備	38	台
	コンプレッサ	28	台	空気調和設備	128	台
				照明設備	4000	台
				その他	146	台

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2021	年度	報告対象年度	2022	年度
	終了年度	2023	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

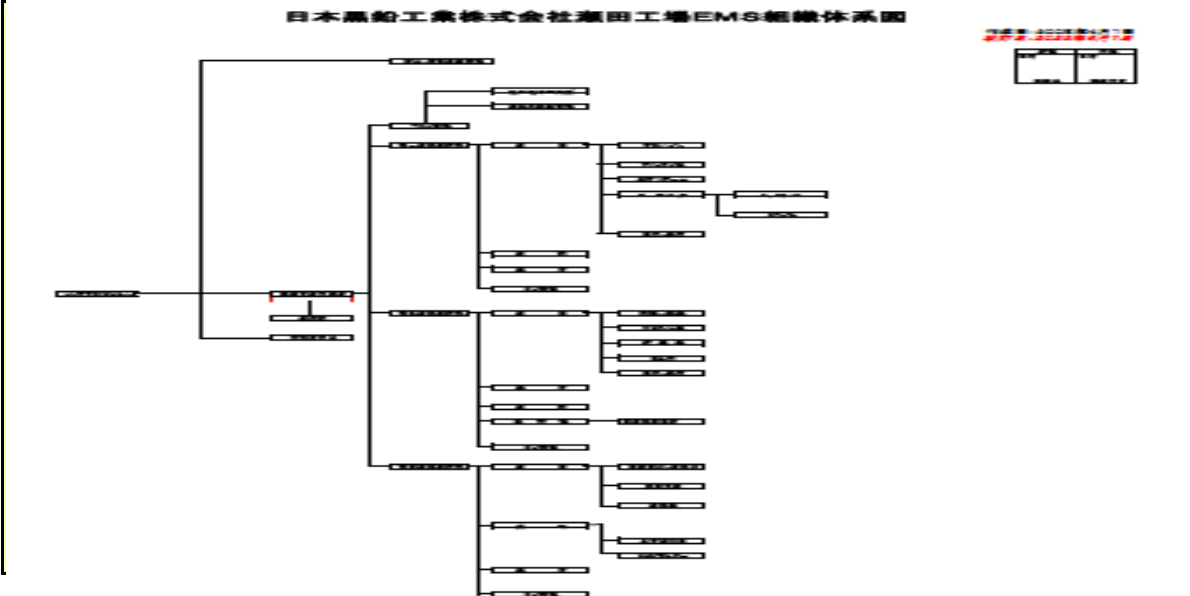
注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

事業活動に関わる環境影響を常に意識し環境に関する法令・協定・顧客要求等を順守すると共に管理水準の向上、環境汚染の予防を推進し環境管理システムを活用し継続的な改善を図ります。

- 1) 環境影響低減のための重点取り組み事項を下記に示します。
 - (1)天然資源の有効利用とエネルギー等の使用量削減を推進する。
 - (2) 環境負荷物質の発生を抑制し、環境汚染の未然防止を推進する。
 - (3) 産業廃棄物の減量化と分別回収による資源のリサイクルを推進する。
 - (4) 企業戦略として環境に配慮したモノづくりを推進する。
 - (5) 業務改善やコスト低減にもつなげる環境に有益な取り組みを推進する。
- 2) 環境目標を設定し、定期的に見直し、継続的改善を図ります。
- 3)環境保護の推進達成のため全従業員をあげて活動に取り組みます。
- 4)本方針は、全従業員に周知するとともに一般にも公開します。

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

2018～2020年度

- ①工場エアリーク調査及び改善による省エネルギー化
- ②節電意識の向上による省電力化
- ③生産設備の効率化による省燃料化
- ④新乾燥設備の燃焼条件を最適化する
- ⑤大型設備の運転時間を最適化する

2021年度～2022年度

- ①黒鉛粉末生産での特定設備における無駄の削減及び生産効率の向上による電力使用量の1%削減
- ②加工製品事業:生産でのCO₂排出量を前年度1%以上削減
- ③黒鉛粉末製品:工程内経費削減活動による無駄の削減
- ④塗料製品:製造工程の合理化(実施及び計画の提案採用数を年6件以上)

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	運用改善	黒鉛粉末生産での特定設備における無駄の削減及び生産効率の向上による電力使用量の1%削減	2023年度末	2022年度目標達成
2	運用改善	加工製品事業:生産でのCO ₂ 排出量を前年度1%以上削減	2023年度末	2022年度目標達成
3	運用改善	黒鉛粉末製品:工程内経費削減活動による無駄の削減	2023年度末	2022年度目標達成
4	プロセス改善	塗料製品:製造工程の合理化(実施及び計画の提案採用数を年6件以上)	2023年度末	2022年度目標達成
5				

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>①黒鉛粉末生産で主要な工程における特定設備を選定して電力使用量を前年度より1%削減を目標とする。単年度に達成した場合は次年度に別設備を選定して順次、生産効率を向上させる事が全体CO₂排出量の削減に寄与する</p> <p>②加工製品事業の製品で量産体制が構築され運用が開始する可能性があり、CO₂排出量を管理して更に前年度1%以上の削減を目標にする</p> <p>③黒鉛粉末生産で主要な工程内の経費を削減する事で無駄を省く活動が生産効率や合理化に良い影響を与え、さまざまな生産活動に寄与する</p> <p>④塗料製品の生産で製造工程の合理化を検討提案する事でCO₂排出量削減も含めて、無駄の削減及び生産効率の向上により全体のCO₂排出量を削減する</p> <p>⑤エネルギー原単位(t-co₂)は生産数量に対して必要な電力量や燃料使用量(CO₂排出量)</p>	2022年度は各目標は達成、進捗状況は良好である。

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		2021年度	2022年度	()年度	()年度	()年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	5,218	5,390	4,874			
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	8,152	8,785	7,005			
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	8,152	8,785	7,005			
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0	0	0			
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移		1.735	1.537	1.611			

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3	再生可能エネルギーの使		
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	再生可能エネルギーの使
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			2021年度	2022年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0	0	0			
上記のうち自家消費量	kWh						

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況	
①低燃費、低公害車載電池製造に使われる黒鉛加工製品製造販売 ②リチウムイオン電池に使用される黒鉛製造販売 ③住宅用蓄電システムの電池に使われる炭素加工製品製造販売 ④自動車に搭載されるアルミニウム部品の加工に使用される潤滑剤の製造販売	①2022年度は生産計画に基づき販売を実施した。 ②2022年度は生産計画に基づき販売を実施した。 ③2022年度は生産計画に基づき販売を実施した。 ④2022年度は生産計画に基づき販売を実施した。	
	CO ₂ 削減貢献量	
	623.0	t-CO ₂

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
①弊社製造の黒鉛加工製品が大きな自動車会社のハイブリッド車載用電池製造に使われており、近年社会現象ともいえるエコカー(低燃費・低公害車)ブームの火付け役ともいえる量産型ハイブリッド車の大幅な燃費改善かつ低価格の実現に大きな貢献を果たしました。 ②弊社製造の黒鉛粉末が携帯電話やノートパソコンに使われる様なリチウムイオン電池の製造に使われており、従来の二次電池の性能を飛躍的に上げることが出来ました。この様なリチウムイオン電池は再生可能クリーンエネルギー社会の実現に大きな役割をもっています。 ③弊社製造の炭素加工製品が、住宅用蓄電システムの電池に使用されており、太陽光パネル等からの電気を蓄電する事で、安心の生活を支えています。この様な蓄電池の性能アップに弊社製品が貢献しています。 ④自動車の軽量化にはアルミニウム部品の搭載が必要で有り、鉄加工部品と同等以上の強度を持つアルミニウム部品の製造には鍛造、スクイズダイキャスト等の高度な加工方法が要求され、それに対して対応可能な潤滑剤を製造しており軽量化に貢献しています。

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO₂削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
①～④の各業種は違うが概ね生産計画及び販売実績は順調に推移しています
CO ₂ 削減貢献量の算出根拠
2021年度エネルギー起源CO ₂ 排出量:8785(t-co ₂)から2022年度:7005(t-co ₂)の削減量1780(t-co ₂)に対して上記①～④は全体生産CO ₂ 排出量の割合が約35%

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			2021年度	2022年度	()年度	()年度	()年度
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂	7,765	8,586	7,199			
エネルギー起源CO ₂ 【調整後排出係数】	t-CO ₂						
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh	0.318	0.351	0.311			
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
グリーン証書の購 入	t-CO ₂						
クレジットの購入	t-CO ₂						
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1	移動の低 減	社内会議をweb会議に変更	月1回	東京担当者の移動を低減 する
2	移動の低 減	サプライヤーへの訪問監査をweb監査に変更(年間 を通じて対応可能なサプライヤー)	年間	監査4社中、2社をweb化
3				

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年 度前年度の 保有台数	実績報告				
				2021年度	2022年度	()年度	()年度	()年度
	保有車輛の数	台	5	5	5			
	上記のうち 次世代自動車の数	台						
特記事項								

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	3R	油水・廃溶剤の排出量を2019年度(28.8t)を維持する	2023年度末	計画通り実施
2	環境マネジ メントシステム (EMS)	環境に配慮した新製品の設計開発を3年で1件以上製品 化する	2023年度末	計画通り実施
3	3R	焼却炉を廃止する。また、焼却処分廃棄物を分別して再 資源化する	2022年度~	計画通り実施
4				
5				